

中間発表（AI班） くらしを助けるAIと しごとを取って代わるAI

インターゼミ2018年度AI班：

荒井綺花、和泉遼、市川駿、馬場新、野呂瀬晋也、一杉波音（経営情報学部）
加藤とまむ、進藤瑞生、田邊輝広、西田良太、矢作真志（グローバルスタディーズ学部）
小縣力郎、酒向雄介（大学院経営情報学研究科）

指導教員：久保田貴文 准教授、久恒啓一 教授（経営情報学部）
渡邊 泰典 教授（グローバルスタディーズ学部）



問題意識

くらしとAI

- ・ 社会的弱者（高齢者・障がい者）：医療と福祉に対する貢献
 - ⇒ 生きがいの創出
- ・ くらしを脅かす危険：
 - ⇒ 安心・安全，心身の健康，社会との接点

仕事とAI

AIが単純な知的労働を代替することで、労働人口の減少に対応し、人間がより価値の高い仕事に集中できるのでは？
そのとき課題はないか？

研究の計画

くらし

しごと

代替としてのAI

- ・がんの早期発見に貢献するAI
- ・薬の処方箋を考えるAIなど



採用選考の一部をAIに任せる企業、顧客や社員の問合せにAIを活用する企業など実用されつつある代替としてAIを研究する

補助としてのAI

- ・障がい者を支援す機能としてのAI
- ・要介護者の支援をするAI



AIを取り入れている宅配事業
航空会社や空港サービスの効率化に活用されてるAI

「くらし」を豊かにする『AI』

人として生きることの喜び＝

生きがい



障がい者



高齢者





リサーチクエスト『くらし』

- 人間にとっての生きがいを明確にする
- AIが人間社会に介入
 - ⇒ 人間の生きがいがどう満たされるか（ポジティブ）
 - ・・・ストレスからの開放
 - ⇒ 人間の生きがいがどう疎外されるか（ネガティブ）
- 手法：「AI」やそれに関わるデジタル技術を研究
 - ⇒ 「豊かな人生」とは何かを模索

くらしにおけるAIのネガティブな側面

工場勤務などの単純作業員は、150万人減り販売に携わる人は

65万人減少する。雇用が奪われる。 ⇒ 収入が減る

自動運転などで、万が一事故が起こってしまった場合誰が

責任を取るべきか？（ロボット法など）



暮らしにおけるAIのネガティブな側面

運動する人が減る
→ 体が鈍る。



AIスピーカーと対話
SNS上でのやりとり

社会との接点がなくなる

平均寿命は長い
が、体や心が健康である
状態は長くはない。



「人」に代わり「しごと」を行う『AI』

「人」にしか出来ない「しごと」 = 人間性



単純労働からの解放



人の創造活動

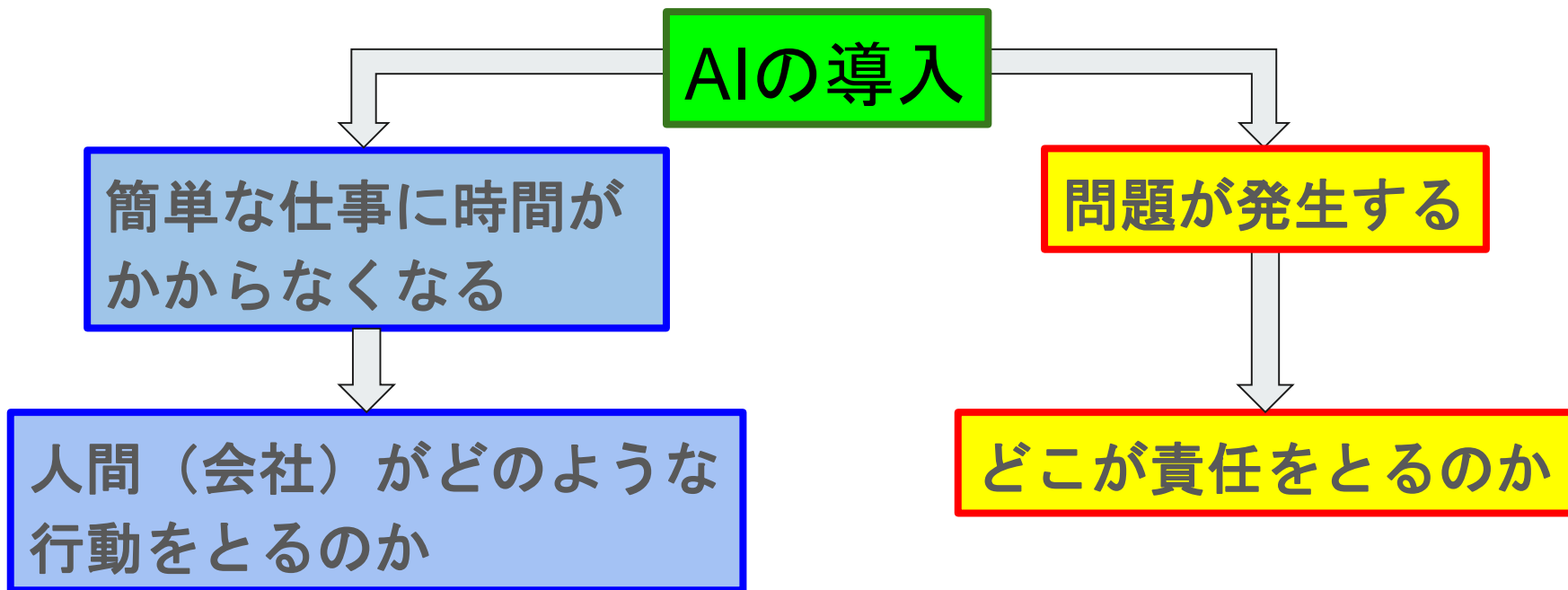




リサーチクエスチョン『しごと』

- AIの技術レベルと具体的な職業との一覧表
- AI導入による人の仕事環境の変化・責任
- AIが仕事の現場に普及することによるネガティブな側面

AI導入による人の仕事環境の変化・責任



しごとにおけるAIのネガティブな側面

- 責任問題
- 人材育成：特に1年目の研修
- 個人情報問題：GDPR





GDPR（一般データ保護規則） （General Data Protection Regulation）

EU加盟国に欧州3カ国を加えたEEA域内31カ国

GDPRとは、『個人データ』の『処理』と『移転』を規制する法律

主なポイント

- ・ データ主体＝個人の権利拡大（個人データの定義が広がる）
- ・ 域外適用（対象範囲が広い）EEA域内に拠点がない場合でも適用
- ・ 罰則金＝最高で2000万ユーロまたは全世界売上高の4%

個人データの保護規則は、GDPRだけではない。全世界で広がっている。



GDPRによって変わるデジタル社会

これまでは、インターネットを基盤としてほぼ無制限に個人データを収集、活用してマネタイズしてきたがその時代は終わる。GDPRは、インターネットを再構築する法律である。

今後、個人情報保護法はグローバルスタンダードになっていく。市場参入や取引先の選定、投資、消費者の購買行動などあらゆる場面で個人データ保護が準拠しているかどうか判断基準になるであろう



仕事をAIが代替したとき

メリット

- 労働不足の補完
- 単純作業の効率化
- 新しい職業の創出
- 約50兆円の経済効果

デメリット

- 240万人分の雇用の消失
- 不祥事や事故時の責任問題
- 新人の育成



フィールドワーク

- ・ しごと・暮らしの中でのAIの利活用事例：AIのネガティブな側面：
⇒ 株式会社デコム（品川区東五反田）：松本健太郎氏（多摩大学大学院修了） 8月7日15:00-
- ・ 障がい者へのAI活用事例：UDトーク（音声入力→文字出力のアプリ）：
⇒ 構造計画研究所：8月8日16:00-
- ・ 障がい者の社会参加：
⇒ スマートインクルージョン研究会：7月31日10:00—実施
- ・ 暮らしの中でのAIの利活用：
⇒ ヤマトホールディングス：ロボネコヤマト ⇒ 依頼済み



今後の予定

- ・ 「暮らし班」と「しごと班」による「AI」活用の実態調査（文献等）
 - ☆ 「暮らし班」
 - 生きがいとは何か？
 - ネガティブなポイントは何か？
 - ☆ 「しごと班」
 - 技術レベルと職業との一覧表
 - GDPR
 - ネガティブなポイントは何か？
- ・ フィールドワーク：しごと・暮らしの中でのAIの活用事例の实地調査
- ・ 上記を論文にまとめる



参考文献

・ 暮らし関係

竹村和浩（2017）「スマートインクルージョンという発想 IoT/AI×障害者が日本の未来を創る」, good.book

新井紀子（2017）「AI vs 教科書のよめない子どもたち」,

神谷美恵子（1966）「生きがいについて」, みすず書房

・ しごと関係

リテールAI研究会（2018）「リアル店舗の逆襲」, 日経BP社

週刊ダイヤモンド（GDPR関係：2018年6月23日号）

・ その他

松尾豊（2015）「人工知能は人間を超えるか」, 角川EpuB選書

西垣通（2016）「ビックデータと人工知能」, 中公新書